

令和4年度 都立紅葉川高等学校 経営計画

1 目指す学校

文武両道、自主自立の精神を身につけ、たくましく生きる力を育成する学校

2 中期的目標と方策

(1) 目標

- ① 進路希望を掲げて努力し、目標を達成する力を育成する。
- ② 自ら情報を集め、論理的に考え行動できる力を育成する。
- ③ 社会性と責任感を持ち、自らの規範意識に従って行動する力を育成する。
- ④ 心身を鍛え、困難に立ち向かい、克服していく力を育成する。

(2) 方策

- ① キャリア教育を通し、自己実現に向かって努力をする。
- ② 学習活動を通し、思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を身につける。
- ③ 生活指導を通し、規則を遵守し、豊かな人間性を身につける。
- ④ 特別活動を通し、コミュニケーション能力とリーダーシップを身につける。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 学習指導

① 目標

思考力、判断力、表現力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成し、学力の向上を図る。

② 方策

ア 授業の改善を図る。

ア) 主体的、対話的で深い学びをさせる授業づくりを図り、思考力、判断力、表現力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成する。

・考えさせる発問、考えさせる課題

・文章や図、表を読み取り、その情報を分析し、まとめ、発表する機会をつくる。

イ) 英語については、4技能の育成を図る。

ウ) 校内での教員相互の授業見学を3回以上、他校の優れた授業見学を1回以上実施し授業改善を図る。

エ) Teams などオンライン等配信型授業の構築を図る。

イ 学力の向上を図る。

ア) 模擬試験やスタディサポート結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を行う。

イ) 家庭学習を前提とした授業づくりを通して、家庭での学習習慣を身につけさせる。

ウ) 土曜講習を有効的に活用する。

エ) 学習コンテンツのスタディサプリを効果的に活用する。

(2) 進路指導

① 目標

計画的で組織的な進路指導を充実し、より高い目標の進路実現を図らせる。そのため、生徒の意識を「行ける大学に進学する」から脱却させ、「行きたい大学に進学する」に高める。

② 方策

ア 計画的な進路指導の充実

模試結果やスタディサポート結果等を教員が分析し、そのデータを生かした継続的な指導を徹底する。(模試の分析会、生徒集会、面接、出願検討会、ケース会議を行い活用する。)

イ 学習機会の充実

ア) 自習室の活用や朝学習、放課後勉強会等、学校での学習環境及び機会を整える。

イ) 部活動単位の学習会等、集団で学習に取り組む雰囲気醸成する

ウ) 長期休業日中や放課後の講習では生徒の学力に応じた学習をさせる。

エ) SIP (Scientific Inquiry Program) 拠点校として理数教育のすそ野を広げる。

ウ 学校推薦型選抜や総合型選抜への対応を計画的、組織的に行う。

進路指導部を中心に面接や小論文指導を全教員体制で行う。

エ 新大学入試への対応

「総合的な探究の時間」「人間と社会」の内容や指導方法の検討を行い、充実した探究活動を行う。

オ キャリア教育の充実

ア) 高校生活の目的意識を深めさせるため、将来働くことの意味や生き方を考えさせる。

イ) 自己理解を深め、早期に自己の在り方・生き方への目標をもたせる。

(3) 生活指導

① 目標

規律ある学校生活を指導し、自主的な生徒の活動を推進する。

② 方策

ア 規律指導の徹底

ア) SNS紅葉川ルールに基づく適正な使い方を促し、SNSによる問題行動を未然に防ぐ。

イ) 年間3回いじめアンケートを実施し、記述内容から問題を早期に発見し、すみやかに解決を図る。

(4) 特別活動

① 目標

学校への帰属意識や人間関係形成能力、自己肯定感、主体性を高める。

② 方策

ア 学校行事

体育祭・文化祭・合唱コンクール等学校行事では、実行委員会を中心に、生徒が主体となって活動する機会を多く設定する。

イ 部活動

ア) 部活動加入率を高める。

イ) 外部指導員の活用等により、専門性の高い指導を行い、技能の向上を図る。

ウ) 練習内容や練習計画を見直し、効率的で効果的な活動を行う。

ウ 地域との交流活動の活発化

地域行事や施設等への参加や手伝いを行うとともに、特別支援学校や小中学校との交流活動を行う。

エ オリンピック・パラリンピック教育の推進

ア) アスリートとの交流活動を年間1回以上実施する。

イ) 海外の人との交流活動を年間1回以上実施する。

(5) 学校経営

① 目標

社会の変化や要望に対応した教育活動を組織的に行える学校とし、「丁寧な指導」をモットーに全ての生徒の伸びしろで勝負する学校とする。また、ライフ・ワークバランスを確保できる環境をつくる。

② 方策

ア 人材育成

ア) 職に応じた業務を担当する中で、能力開発を行う。前例踏襲型ではなく、課題解決型で職務を遂行する。

イ) 主幹教諭、主任教諭から若手教員等への指導を徹底する。

イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し

ア) 会議時間を短縮する。(会議時間は50分を上限とする。)

イ) 起案文書の電子化の徹底を図る。

ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす

部活動で外部顧問を活用し、引率や指導を必要最少の人数で行い、ライフ・ワークバランスを確保する。

エ 服務事故防止に努め、信頼される学校をつくる。

ア) 答案や成績資料、調査書、奨学金、就学支援金等の個人情報の取り扱いは、規程を遵守する。

イ) 部費の管理を規程に基づき、適切に行う。

ウ) 服務事故防止研修を年間2回以上開催するなど、体罰・暴言等信用失墜行為を未然に防止し、服務事故ゼロとする。

オ 適正な予算執行と施設管理の徹底

ア) 会計処理は、正確かつ迅速に行う。

イ) 授業料や学校徴収金の管理を丁寧・迅速に行う。

ウ) 施設の破損や老朽化による不調は速やかに対応する。

(6) 募集・広報活動

① 目標

教務部総務部門と募集対策委員会が連携し、組織的な広報活動を全ての教職員で行い、本校の特色を中学生及びその保護者に広く周知する。

② 方策

ア 情報発信の強化

ア) ホームページのリニューアルと更新頻度の向上

・行事や集会、部活動の取り組み等生徒の日常の様子をタイムリーに掲載する。

イ) 保護者への情報発信

・保護者向けのお知らせや案内を掲載する。

イ 募集対策の強化

ア) 中学校及び学習塾への訪問を全教職員で行う。また、生徒には近況の報告をさせるため、出身中学校や学習塾を訪問させる。

イ) 学校説明会や授業公開では中学生や保護者に環境整備を含め丁寧な対応に努める。

(7) 安全・防災・健康教室

① 目標

心身にわたる健康増進と安全に対して、自ら考え、行動する力を育成する。

② 方策

ア 防災訓練

防災教育研究指定校として避難訓練、防災訓練を強化し、災害時における初期の基本動作を身につけさせる。また、江戸川区や消防署との連携を図る。

イ 交通事故防止

セーフティー教室や朝の登校指導等で自転車の乗り方指導を行うとともに、自転車保険へ加入させる。

ウ 健康管理及び教育相談

ア) スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、当該学年、生活指導部、管理職間で情報を共有する。

イ) 教育相談センターや専門医派遣事業等を活用する。

ウ) 体育健康教育推進校として、運動やスポーツとの多様な関りを通して、健康で活力に満ちた生活をデザインする資質や能力を育成ため、効果的な体育健康教育を実践的に研究する。

エ 感染症対策

新型コロナウイルスをはじめ感染症対策を確実に行うと共に、保健所、学校経営支援センター、学校健康推進課と連携を図る。

(8) 数値目標

① 学校運営連絡協議会が行う学校評価における数値目標

項 目	目標値	令和3年度実績
ア 生徒の本校に対する満足度	90%	85%
イ 生徒の授業に対する満足度	90%	87%
ウ 生徒の進路指導に対する満足度	90%	80%
エ 生徒の行事に対する満足度	90%	81%
オ 生徒の部活動に対する満足度	90%	89%

② 生徒が希望する進路実現を果たすべく進路結果を数値目標として設定する。(現役生徒)

項 目	目標値	令和3年度実績
ア 4年制大学進学率	65%	63%
イ 日東駒専の合格者数	30名	19名
ウ 国公立・早慶上智・GMARCH・理科大の合格者数	5名	1名

③ 生徒募集対策の改善を図り、応募倍率の向上を目指す。

項 目	目標値	令和3年度実績
ア 推薦による入選の応募倍率 (男女平均)	3.8倍	3.35倍
イ 学力検査による入選の応募倍率 (男女平均)	1.6倍	1.63倍

④ 生徒の毎日の生活行動から、学校生活への取組状況及び指導の成果を把握する。

項 目	目標値	令和３年度実績
ア １・２学年家庭学習時間：平日１時間以上の割合 (第２回スタディサポート結果)	５０％	１年 ３３．３％
		２年 １８．５％
イ 部活動加入率（１０月１日時点）	９０％	８８％